

新任薬剤師研修会を受講して

国立がん研究センター中央病院 加藤奈々美

出身大学：東邦大学（2020年）

2020年3月に大学を卒業、4月に国立がん研究センター中央病院の薬剤師レジデントとして入職させていただきました。今年の4月で2年目となります。大学卒業の時に新型コロナウイルスの報道があり、あっという間にウイルス感染が拡大し1年目での新人研修は中止になり、薬剤部での歓迎会や同期での飲み会などないまま2年目を迎えてしまい、少し寂しい気持ちもあります。そんな中オンラインではありますが、今回このような形で新人研修を受けられたことを大変うれしく思い、大変感謝をしております。

簡単にですが自己紹介をさせていただきます。当院に入職をきめるきっかけになったのが中学生の時にALLを患ったことです。入院していた当時は病棟で薬剤師を見かけることはなかったのですが、就職先を考えた際に薬剤師が病棟で活躍していることを知り興味を持ちました。がんという領域にも興味があり、私の経験を活かせる場所で働きたいと思うようになりました。当院のカリキュラムが整っているレジデントという制度で3年間知識をつけながら働けたらと思い就職を決めました。1年目ではセントラル業務と抗がん剤調製を学び、2年目の今は抗がん剤調製のスキルアップを、さらに病棟業務が始まり、日々奮闘しながら働いている毎日であります。

さて、新人研修の内容ですが、テーマは「医療安全」についてでした。入職させていただいてから今まで、インシデント報告は多々してきました。その原因は確認不足や知識不足、キャパシ

ティを超えたタスク…など様々あります。インシデントは薬剤部や病院全体にとって恐らく切っても切れない問題なのだろうと思います。今回の研修で学んだのは、「ハウレンソウ」を怠ったことが原因でインシデントが起こってしまうといった事例で、実際に私の身の回りでも起こったことがあります。今回の研修ではハウレンソウの重要性や、何を伝えなくてはいけないのか、改めて考える機会になりました。それは薬剤師同士だけではなく、医師や看護師に対してもそうであり、自分が不安だと思ったことはそのままにせず、自信をもってハウレンソウできるような薬剤師になろうと思えました。

薬剤師として、レジデントとして過ごす日々は毎日が知識不足であることを痛感させられます。入職して早1年が過ぎ、月日があっという間に過ぎ去っていくことに焦りも覚えます。レジデントが修了するまでの期間に、がんの知識を学ぶ最高の場所で、薬剤師としても社会人としても成長していけたらと思います。

この度はありがとうございました。